

博士論文要旨

関西福祉大学大学院 看護学研究科看護学専攻博士後期課程	学籍番号 8117102 氏 名 川嶋元子
論文題目	中規模病院に勤務する外来看護師の在宅療養支援に対する役割認知に関する研究 A Study of Role Recognition in Home Care Support among Outpatient Nurses in Medium-Sized Hospitals
<p>I. 目的</p> <p>医療提供の場が病院完結型から地域完結型へと移行しており，地域包括ケアシステムの構築が推進されている．わが国の病院は，約 7 割が 200 床未満の病院であることから，200 床未満の病院で在宅療養支援を行うことが求められる．しかし，200 床以上の病院に比べ 200 床未満の病院では外来での在宅療養支援の実施率が低い現状がある．その要因として，外来看護師が在宅療養支援の対象者がわからない，実施方法がわからないなど，在宅療養支援の役割を認知できていないことが明らかとなっている（尾ノ井他，2015）．そこで，本研究の目的は，100～200 床未満の病院（以下，中規模病院）の外来看護師が在宅療養支援の役割を認知し，外来患者に主体的にかかわりを持つことができる外来看護師の在宅療養支援に対する役割認知尺度（以下，役割認知尺度）を開発することである．</p> <p>II. 方法</p> <p>本研究は，関西福祉大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：関福大学第 30-0806 号，承認番号：関西福祉大学 2-0714 号）．</p> <p>先行文献より，在宅療養支援の実践内容を 53 項目抽出し予備調査を行った．さらに，外来看護師 6 人と尺度開発の経験のある心理学領域の専門家と項目内容について協議した結果，最終的に合計 58 項目を役割認知尺度（案）とした．</p> <p>次に，近畿圏内の一般病床と療養病床を持つ中規模病院 100 施設で勤務する外来看護師を対象に質問紙調査を行った．質問内容は，①施設の概要（3 項目），②基本属性（11 項目），③在宅療養支援に必要な看護実践内容（58 項目）とし，実施度を 5 件法で尋ねた．データ分析は，対象者の所属する施設の概要と基本属性について記述統計を行い，在宅療養支援の実践内容は，項目分析，因子分析を行った．信頼性については，Cronbach α 係数より内的整合性，構成概念の妥当性は，共分散構造分析による確認的因子分析により確認した．統計学的分析には，Windows 版 SPSSver26 および AMOSver27 を用いた．有意水準は 0.05 未満とした．その後，統計分析により信頼性・妥当性を確認した役割認知尺度の使用を外来看護師に依頼し，実用性を検証した．</p> <p>III. 結果</p> <p>質問紙調査は，近畿圏内の中規模病院 100 施設のうち宛先不明で返送された 1 施設を除く 99 施設の外来で勤務する看護師 495 人に質問紙を配布し，234 人から回答を得た（回収率は 47.2%，有効回答率 85.4%）．</p> <p>項目分析，因子分析の結果，【予測アセスメント役割】（6 項目），【リレーションシップ役割】（5 項目），</p>	

【コミュニケーション役割】(4項目)の3因子15項目の信頼性, 妥当性のある尺度が開発できた。モデルの適合度を因子分析で確認した結果, 適合度指標は, CFI=0.942, AGFI=0.850, GFI=0.889, RMSEA=0.072 でありモデルとして妥当であった。その後, 役割認知尺度の使用を8人の外来看護師に依頼し, 実用性を検証した。その結果, 8人の外来看護師全てから活用できる尺度であると回答があった。また, 役割認知尺度を使用し, 【自分自身の実践を客観的に評価できる】, 【在宅療養支援の意識づけになる】, 【自分の在宅療養支援の課題が見える】, 【尺度の項目数が適度で使用しやすい】等の意見があった。

中規模病院の外来では, 200床以上の病院と比べ看護業務以外の事務作業も多く, 看護業務に携わる人員配置が少ない。その中で在宅療養支援を行うためには, 外来看護師自身が在宅療養支援の必要性のある患者であるかどうかを判断するために, 主体的に患者に関わり情報収集とアセスメントを行う【予測アセスメントの役割】が必要である。また, 外来看護師は, 患者と関わる時間が限られるため看護師一人で在宅療養支援を実施するのではなく, 他職種との【リレーションシップ役割】が必要となる。そして, 多忙な業務の中でも, 患者を理解しようとする【コミュニケーション役割】が必要であるため, 在宅療養支援の役割認知として3因子が抽出されたと考える。本研究により, 在宅療養支援の役割と主体的に患者に関わりを持つこととの関係に高い相関が見られたことから, 外来看護師が尺度を使用して役割を認知することが在宅療養支援の実践につながると言える。

IV. 結論

本研究では, 【予測アセスメント役割】(6項目)・【リレーションシップ役割】(5項目)・【コミュニケーション役割】(4項目)の3因子15項目から成る信頼性, 妥当性のある在宅療養支援の役割認知尺度が開発できた。中規模病院(100床~200床未満)の外来看護師が本尺度を使用することで, 在宅療養支援における自身の役割を客観的にとらえることにつながる。また, 役割を認知することで, 外来患者に主体的にかかわりを持つことが可能となり, 在宅療養支援の実践に貢献できると考える。

主指導教員氏名 難波 峰子